

2024年3月期 第1四半期 決算説明会

2023年8月9日

富士フイルム ホールディングス株式会社

NEVER
STOP

FUJIFILM
Value from Innovation

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日のアジェンダ – 2024年3月期 第1四半期 決算説明会 –

2024年3月期 第1四半期

1 | 決算ハイライト及びトピックス

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2 | 連結業績及び事業概況

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2024年3月期

3 | 連結業績予想

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

01 2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト及びトピックス

2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト

2024年3月期 第1四半期 連結業績

売上高	営業利益	当社株主帰属 四半期純利益
6,608 億円 対前年 ↑+5.6%	522 億円 ↑+5.4%	544 億円 ↑+31.5%

- 売上高は、メディカルシステム、イメージングの販売好調や為替影響等により増収。
- 営業利益は、半導体市況停滞の影響等を受けるも、大幅な増収となったイメージング等が貢献し増益。
- 当社株主帰属四半期純利益は、投資有価証券評価益の計上により増益。

2024年3月期 通期連結業績予想

売上高	営業利益	当社株主帰属 当期純利益
過去最高 2兆9,500 億円	過去最高 2,900 億円	過去最高 2,250 億円

- (2023/5/10)
- 通期連結業績予想は、前回予想を据え置き、売上・利益の過去最高更新を目指す。
 - 年間配当は、14期連続増配となる150円/株を予定。

第1四半期の売上高は6,608億円、営業利益は522億円、当社株主帰属四半期純利益は544億円となりました。

売上高は、メディカルシステムやイメージングの販売が好調だったことに加え、為替影響もあり、増収となりました。

営業利益は、半導体市況停滞の影響などを受けるも、大幅な増収となったイメージングなどが貢献し、増益となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、投資有価証券の評価益を計上したことなどにより、増益となりました。

2024年3月期の通期連結業績予想は、イメージングの好調や、半導体市況などの現在の経済環境を見据えて、一部事業で見直しを行います。全体では据え置き、売上・利益の過去最高更新を目指します。

2024年3月期の年間配当予想は、前回お伝えしました通り、14期連続増配となる150円です。

2024年3月期 第1四半期 決算トピックス 1/3

メディカルシステム

富士フィルムヘルスケア*1とのグループシナジーを最大化させるべく、今年度は国内グループ会社の再編に着手。グループの総合力をより一層高めた、強固な事業体制をスピーディに構築し、2030年度：1兆円の売上高を目指す。

2020年度
売上高実績
3,490 億円

*1: 2021年3月
株式会社日立製作所の
画像診断関連事業を承継し設立

STEP1

2021年度
売上高実績
5,338 億円

販売・製造シナジーの創出

- ・クロスセルを開始
- ・国内の製造会社を統合
- ・米国の販売現地法人を統合

開発シナジーの創出

- ・AI技術を活用した機能を搭載するCTや超音波診断装置の発売
- ・アジアパシフィック、欧州の現地法人を統合

STEP2

2022年度
売上高実績*2
6,218 億円

グループシナジーの拡大

- ・透視機能付きX線画像診断システムの発売
- ・国内グループ会社を機能軸で再編成 (2024年夏完了予定)
 - ▶ 事業戦略立案・研究開発機能の集約
 - ▶ 販売・保守サービス機能の集約

計画通り遂行中

*2: 2024年3月期(2023年度)より非破壊検査事業の売上高・営業利益を「ヘルスケア」セグメントに組み替え表示していることに伴い、2023年3月期(2022年度)の売上高をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 5

次に第1四半期のトピックスを三つお話しします。

まず一つ目は、7月に発表しました、メディカルシステム事業の国内グループ会社の再編についてです。

2021年3月に株式会社日立製作所の画像診断関連事業の買収を完了し、富士フィルムヘルスケア株式会社としてスタートして以降、グループシナジー最大化に向けた様々な施策を段階的に進めてきました。

まず1年目の2021年度は、富士フィルムグループが有する技術・製品などを生かし、医療現場のニーズに応えるワンストップソリューションの体制を整備すべく、医療機器の最大市場である米国の販売現地法人の統合によるクロスセルの拡大など、販売シナジーの創出を進めました。

発足後2年目となる2022年度には、富士フィルムが有するAI技術を搭載したCTや超音波診断装置を発売するなど、開発面でのシナジーを創出したことに加え、アジアパシフィック、欧州でも現地法人の統合を進めました。

そして3年目となる今年度は、シナジー最大化と事業成長を一段と加速させるべく、最大組織である国内グループ会社の再編に着手します。具体的には、各社に分散していた事業戦略立案や研究開発、販売・保守サービス機能を会社単位で集約し、一体運営強化、知見・ノウハウの融合により、グループの総合力をより一層高めていきます。

これまで進めてきた施策の総仕上げとなる本再編を2024年夏までに完了させることで、メディカルシステム事業のさらなる体制強化をはかり、2026年度までに7,000億円、2030年度1兆円の売上高を目指します。

2024年3月期 第1四半期 決算トピックス 2/3

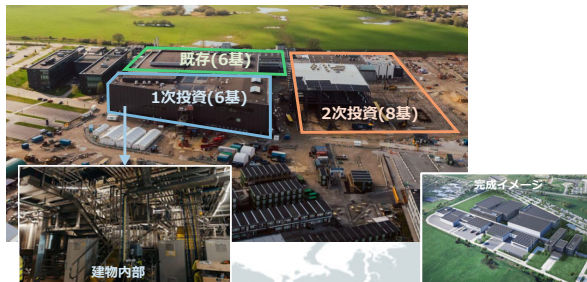
バイオCDMO

大型設備投資(2万ℓ培養タンク)

デンマーク拠点(1次 | 2次)・米国ノースカロライナ拠点とともに、スケジュール通り進行中
本稼働に向けて、大手製薬メーカーとの商談も順調に進捗

デンマーク拠点

(第1次投資：2024年度から稼働予定)



米国ノースカロライナ拠点

(2025年度から稼働予定)



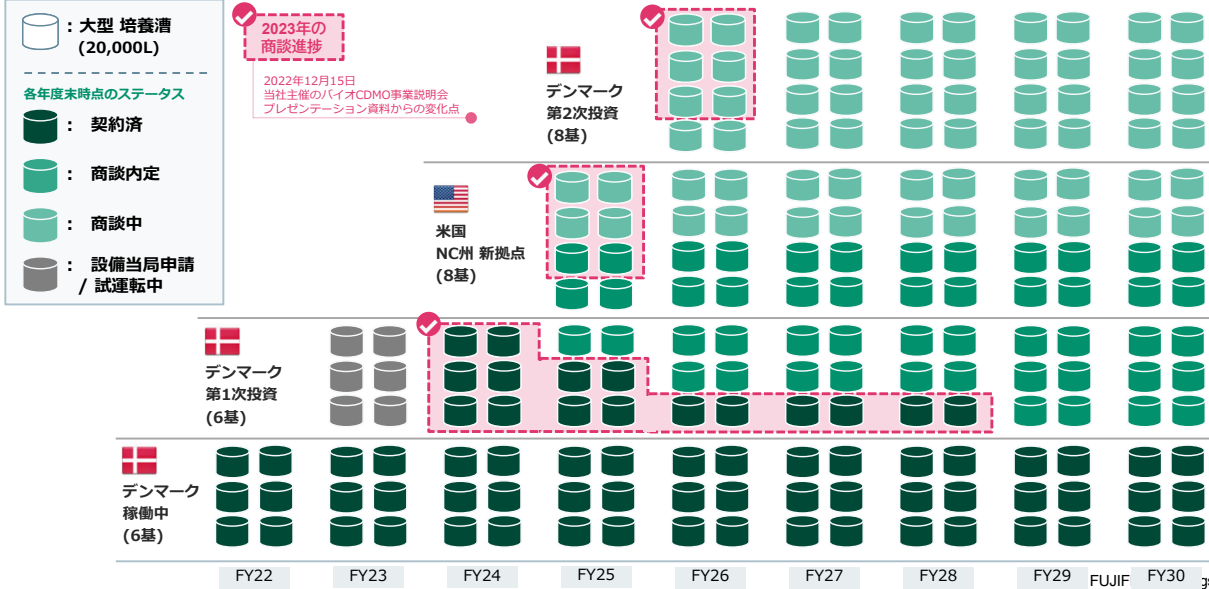
二つ目は、バイオCDMOでの大規模設備投資の進捗についてです。

バイオ医薬品の旺盛な製造受託ニーズを受け、デンマーク拠点と米国ノースカロライナ拠点に、2万リットル培養タンクを増設する大型設備投資を進めています。本投資により、現在デンマーク拠点で6基が稼働中の2万リットルの培養タンク数を、2026年までに両拠点で28基まで増設し、中・小型タンクを合わせた全世界の生産能力を現在の18万リットルから、業界トップクラスとなる、66万リットルに拡大させる予定です。

スライドに掲載している写真は、デンマーク拠点とノースカロライナ拠点における本建設工事の最新状況です。両拠点ともに、当初の予定通り建設が進んでいます。

2024年3月期 第1四半期 決算トピックス 3/3

バイオCDMO

第1次投資
デンマーク拠点で増設する培養タンク6基の2024年度稼働分は、全て契約済

最後に三つめは、ご説明しました大型設備投資に関連し、現在稼働中及び今後、順次稼働を開始する2万リットル培養タンクのお客様との商談進捗状況についてです。

昨年12月に当社が主催するバイオCDMO事業説明会でご説明した状況から進展し、デンマーク拠点の第1次投資で増設する培養タンク6基の2024年度稼働分は、全て契約済みとなりました。

また、2025年度からの稼働を予定している米国ノースカロライナ拠点の8基については、新たに2基分が商談内定、さらに4基分は商談が進んでおり、2025年度からの本稼働に向けて、お客様との契約締結の目途が立ちました。

そして、2026年度から稼働を予定しているデンマーク第2次投資の8基も、全て商談中となっています。

当社は新設備の立ち上げを計画通りかつ確実にいき、大型設備が稼働開始する2024年度からバイオCDMO事業の成長をさらに加速させ、2030年度5,000億円の売上高を目指します。

02 2024年3月期 第1四半期 連結業績及び事業概況

2024年3月期 第1四半期 業績 (2023年4月～2023年6月)

(単位：億円)

	1Q				
	2023年3月期	2024年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	6,259 100.0%	6,608 100.0%	349 +5.6%	173	176 +2.8%
営業利益	496 7.9%	522 7.9%	26 +5.4%	40	-14 -2.6%
税金等調整前四半期純利益	552 8.8%	693 10.5%	141 +25.5%	29	112 +20.2%
当社株主帰属四半期純利益	414 6.6%	544 8.2%	130 +31.5%	20	110 +26.6%
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	103.21円	135.66円	32.45円	<その他増減要因(対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響： -7億円 (半導体等の部材価格は含まず)	
為替 ：米ドル ：ユーロ	130円 138円	138円 150円	8円安 12円安		

2024年3月期 第1四半期の業績は、

売上高は、メディカルシステムやバイオCDMO、イメージングの販売好調や、為替の円安影響により、前年比5.6%増の6,608億円となりました。

営業利益は、バイオCDMOやLSソリューションで棚卸資産の評価減を計上し、また、電子材料やディスプレイ材料で市況軟化の影響を受けた中でも、増収による増益、及び為替影響などで前年比5.4%増の522億円となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、投資有価証券評価益の計上などにより、前年比31.5%増の544億円となりました。

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位：億円)

売上高	1Q		対前年度		為替影響除く	
	2023年 3月期	2024年 3月期				
ヘルスケア	1,828	2,068	240	+13.1%	172	+9.4%
※ マテリアルズ	1,724	1,546	-178	-10.4%	-225	-13.1%
ビジネスイノベーション	1,882	1,942	60	+3.2%	38	+2.0%
イメージング	825	1,052	227	+27.6%	191	+23.2%
合計	6,259	6,608	349	+5.6%	176	+2.8%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

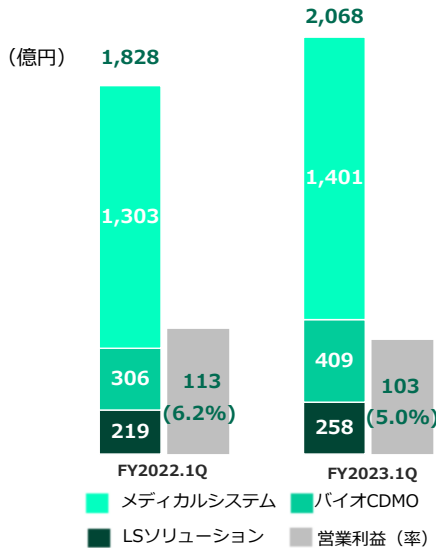
営業利益	1Q		対前年度		為替影響除く	
	2023年 3月期	2024年 3月期				
ヘルスケア	113	103	-10	-9.1%	-18	-16.2%
※ マテリアルズ	223	93	-130	-58.1%	-146	-65.5%
ビジネスイノベーション	142	169	27	+18.7%	27	+18.4%
イメージング	105	233	128	2.2倍	113	2.1倍
全社/連結調整	-87	-76	11	-	10	-
合計	496	522	26	+5.4%	-14	-2.6%

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

セグメント別の売上・利益はご覧の通りです。

セグメント別概況：ヘルスケア

全サブセグメントにおいて増収となり、売上高対前年+13.1%、営業利益はバイオCDMOとLSソリューションにおける棚卸資産評価減の計上等により、対前年-9.1%で着地。



メディカルシステム

売上高 1,401億円 (対前年+7.5%)

- 内視鏡、医療ITなどの販売が好調に推移し、増収。内視鏡では、国内で新製品の販売が好調だったことや、欧州・中国等で販売が伸長。医療ITでは、医用画像情報システム(PACS)「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売の好調が寄与。

バイオCDMO

売上高 409億円 (対前年+33.4%)

- 抗体医薬の製造受託がデンマーク拠点を中心に堅調に推移したことにより、増収。
- バイオベンチャー顧客の資金調達難を背景とした遺伝子治療薬等の受託低調により、有効期限切迫となった共通部材・消耗品の評価減を計上。

LSソリューション

売上高 258億円 (対前年+18.2%)

- ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用培地の原材料需給逼迫が改善し、出荷が進んだこと等により、増収。
- コロナ禍における調達リードタイム長期化をうけて先行確保した、コロナワクチン用培地などに使用する一部原材料が、有効期限切迫となり評価減を計上。

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリセットしています。

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

全サブセグメントにおいて増収を確保したことにより、売上高は、前年比13.1%増の2,068億円、営業利益は、バイオCDMO、LSソリューションで棚卸資産の評価減を計上したことなどにより減益となり、前年比9.1%減の103億円となりました。

メディカルシステムは、内視鏡、医療ITなどの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

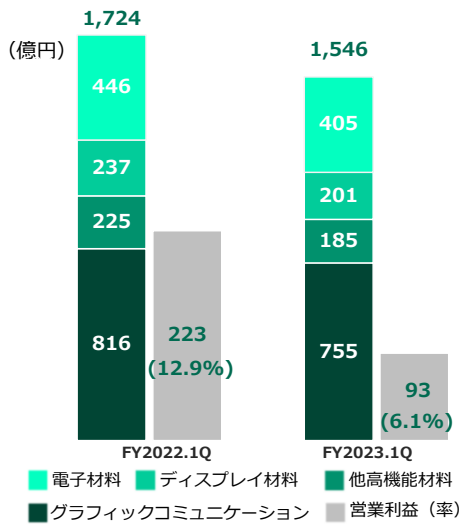
内視鏡では、国内で新製品の販売が好調だった他、欧州・中国などで販売が伸長しました。医療ITでは、医用画像情報システム(PACS)「SYNAPSE」や、3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が好調に推移しました。

バイオCDMOは、デンマーク拠点を中心に抗体医薬の製造受託が堅調に推移したことなどにより、売上が増加しました。一方で、バイオベンチャー顧客の資金調達難を背景とした遺伝子治療薬等の受託低調により、有効期限切迫となった共通部材・消耗品の評価減を計上しました。

LSソリューションは、バイオ医薬品用培地の原材料需給逼迫が改善し、出荷が進んだことなどにより、売上が増加しました。一方で、コロナ禍における調達リードタイム長期化をうけて先行確保した、コロナワクチン用培地などに使用する一部原材料が、有効期限切迫となり評価減を計上しました。

セグメント別概況：マテリアルズ

半導体市況の停滞や印刷需要の減少等により、売上高対前年-10.4%、営業利益対前年-58.1%の減収・減益で着地。



電子材料 売上高 405億円 (対前年-9.1%)

- 半導体市場の市況軟化の影響を受け、減収。
- 本年5月に、米国Entegris社の半導体用プロセスケミカル事業の買収を発表。当年度内の買収完了に向けて各種手続きを進めている。

ディスプレイ材料 売上高 201億円 (対前年-15.4%)

- コロナ禍特需の反動によるサプライチェーン全体での生産調整や、コンシューマーデバイスの需要停滞の影響を受け、減収。

他高機能材料 売上高 185億円 (対前年-17.6%)

- 産業機材で、業務用PCの需要低迷を受けたタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の販売減などにより、減収。

グラフィックコミュニケーション 売上高 755億円 (対前年-7.6%)

- グラフィックコミュニケーションでは、刷版材料分野において日本・欧米を中心とした印刷物需要減の影響などにより、減収。
- インクジェットでは、セラミック市場向けインクジェットヘッドの販売が、欧州・中国で需要低迷の影響を受けたことなどにより、減収。

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリセットしています。

マテリアルズの業績の概要を説明します。

半導体市況の停滞や印刷需要の減少等により、売上高は、前年比10.4%減の1,546億円、営業利益は、前年比58.1%減の93億円となりました。

電子材料は、半導体市場の市況軟化の影響を受け、売上が減少しました。本年5月に買収を発表した米国Entegris社の半導体用プロセスケミカル材料事業について、当年度内の買収完了に向けた各種手続きを進めています。

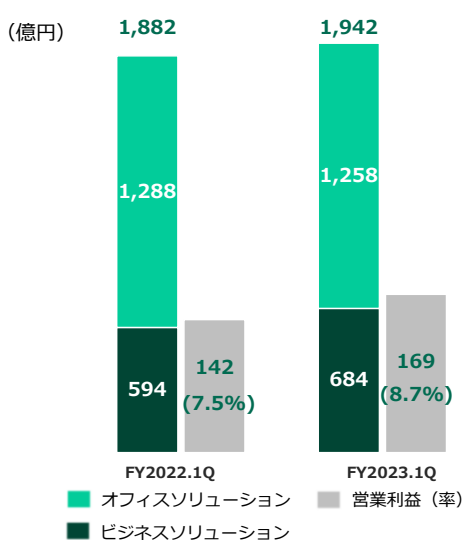
ディスプレイ材料は、コロナ禍特需の反動によるサプライチェーン全体での生産調整や、コンシューマーデバイスの需要停滞の影響を受け、売上が減少しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料分野において日本・欧米を中心とした印刷物需要の減少影響などにより、売上が減少しました。

インクジェットは、セラミック市場向けインクジェットヘッドの販売が、欧州・中国で需要低迷の影響を受けたことなどにより、売上が減少しました。

セグメント別概況：ビジネスイノベーション

ビジネスソリューションの増収により、売上高対前年+3.2%、営業利益対前年+18.7%と増収・増益で着地。



オフィスソリューション 売上高 1,258億円 (対前年-2.3%)

- 新規OEMの拡大やワールドワイドでの価格改定等を実施するも、欧米向け輸出が減少したこと等により、減収。
- 2023年7月に、業界トップクラスの低温定着性能を実現するSuper EA-Ecoトナーの生産能力増強を発表。CO₂排出量を削減する製造プロセスも新たに導入、商品提供を通じて脱炭素社会へ貢献。

ビジネスソリューション 売上高684億円 (対前年+15.2%)

- 国内で自治体向け売上が増加したことや、前年度に買収した豪州ITサービス企業MicroChannel Services社の販売が寄与し、増収。
- 2023年6月に、自治体による罹災証明書交付の迅速化に向けて「被害調査統合システム」と「家屋被害判定アプリ」の提供を開始。また、お客様のDX活動を通じた成功体験 CHX (カスタマー・ハッピー・エクスペリエンス) を実現するソリューション・サービスとして、IT資産の可視化や運用/管理から環境改善支援まで、お客様のニーズに合わせてワンストップで提供するITサポートサービス「IT Expert Services」の提供を開始。

ビジネスイノベーションの業績の概要を説明します。

ビジネスソリューションの増収により、売上高は、前年比3.2%増の1,942億円、営業利益は、前年比18.7%増の169億円となりました。

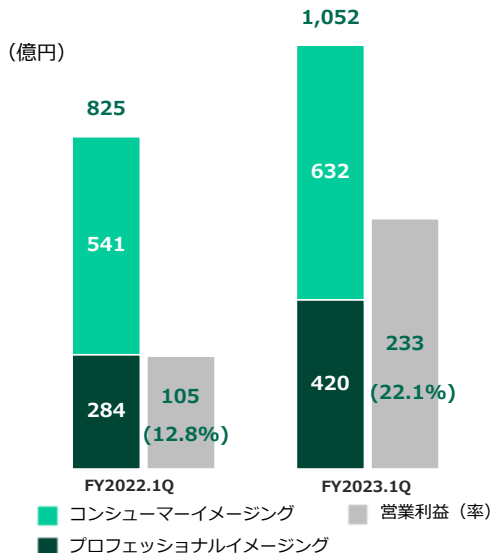
オフィスソリューションは、新規OEMの拡大やワールドワイドでの価格改定などを行いましたが、欧米向け輸出が減少したことなどにより、売上が減少しました。本年7月には、業界トップクラスの低温定着性能を実現するSuper EA-Ecoトナーの生産能力を増強することを発表しました。CO₂排出量を削減する製造プロセスも新たに導入し、商品提供を通じて脱炭素社会へ貢献していきます。

ビジネスソリューションは、国内で自治体向けの売上が増加したことや、前年度に買収した豪州ITサービス企業MicroChannel Services社の販売が寄与し、売上が増加しました。

本年6月には、自治体による罹災証明書交付の迅速化に向けて「被害調査統合システム」と「家屋被害判定アプリ」のサービスの提供を開始しました。また、お客様のDX活動を通じた成功体験 CHX (カスタマー・ハッピー・エクスペリエンス) を実現するソリューション・サービスとして、IT資産の可視化や運用/管理から環境改善支援まで、お客様のニーズに合わせてワンストップで提供するITサポートサービス「IT Expert Services (アイティー・エキスパート・サービシズ)」の提供を開始しました。

セグメント別概況：イメージング

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高対前年+27.6%、営業利益対前年2.2倍と増収・増益で着地。



コンシューマーイメージング

売上高 632億円 (対前年+17.0%)

- ・ インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、増収。
- ・ 最新エントリーモデル「INSTAX mini 12」やデジタル技術を搭載したハイブリッドインスタントカメラ「INSTAX mini Evo」、スマホプリンター「INSTAX mini Link2」の販売が伸長。
- ・ 2023年6月に、スクエアフォーマットに対応した「INSTAX SQUARE SQ40」を発売し、販売が好調に推移。

プロフェッショナルイメージング

売上高 420億円 (対前年+47.9%)

- ・ デジタルカメラは、前年度に発売した「X-H2」「X-H2S」「X-T5」を中心に販売が好調に推移し、大幅に増収。
- ・ 2023年6月に、小型軽量ボディに大容量バッテリー・高性能AF・動画撮影機能を搭載したオールインワンモデル「X-S20」を発売。

イメージングの業績の概要を説明します。

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は、前年比27.6%増の1,052億円、営業利益は、前年比2.2倍と大きく増益し、233億円となりました。

コンシューマーイメージングでは、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調で、売上が増加しました。インスタントフォトシステムは、最新エントリーモデル「INSTAX mini 12」やデジタル技術を搭載したハイブリッドインスタントカメラ「INSTAX mini Evo」、スマホプリンター「INSTAX mini Link2」の販売が好調に推移しました。2023年6月には、スクエアフォーマットに対応した「INSTAX SQUARE SQ40」を発売し、好評をいただいています。

プロフェッショナルイメージングでは、前年度に発売した「X-H2」、「X-H2S」、「X-T5」を中心に販売が好調に推移し、大幅な増収となりました。2023年6月には、小型軽量ボディに大容量バッテリー・高性能AF・動画撮影機能を搭載したオールインワンモデル「X-S20」を発売しました。

連結貸借対照表

(単位：億円)									
	22年 3月期末	23年 3月期末	24年3月期 6月末	対23年 3月期末		22年 3月期末	23年 3月期末	24年3月期 6月末	対23年 3月期末
現金及び現金同等物	4,863	2,686	2,500	-186	長短社債及び借入金	4,472	3,762	4,644	882
受取債権	5,986	6,331	6,116	-215	支払債務	3,032	3,204	3,251	47
棚卸資産	5,045	5,673	6,303	630	その他流動・固定負債	6,800	6,498	6,767	269
その他流動資産	1,353	1,621	1,918	297	負債計	14,304	13,464	14,662	1,198
流動資産計	17,247	16,311	16,837	526	株主資本計	25,027	27,631	29,050	1,419
有形固定資産	7,368	9,761	10,949	1,188	非支配持分	222	248	34	-214
営業権	8,240	8,583	8,888	305	純資産計	25,249	27,879	29,084	1,205
その他固定資産	6,698	6,688	7,072	384	負債・純資産合計	39,553	41,343	43,746	2,403
固定資産計	22,306	25,032	26,909	1,877	(単位：円)				
資産合計	39,553	41,343	43,746	2,403	期末日 為替レート	22年 3月期末	23年 3月期末	24年3月期 6月末	対23年 3月期末
					米ドル	122	134	145	11円安
					ユーロ	137	146	158	12円安

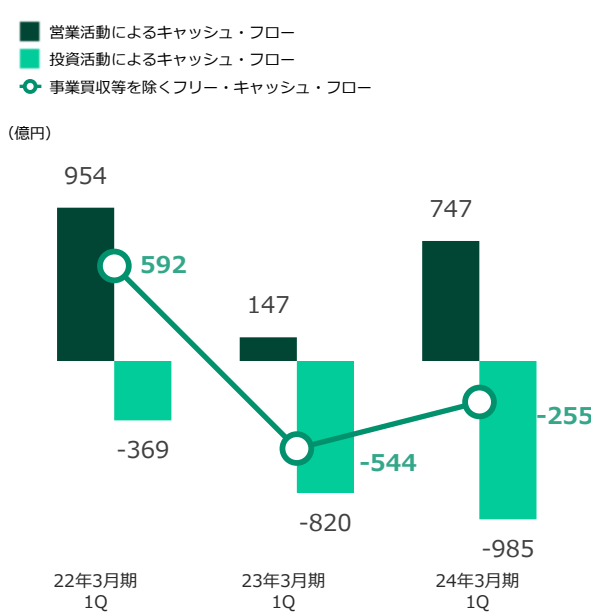
バランスシートについて説明します。

2024年3月期6月末時点の資産合計は、有形固定資産や棚卸資産の増加などにより、2023年3月期末時点と比べ、2,403億円増の4兆3,746億円となりました。

負債は、1,198億円増の1兆4,662億円となりました。

株主資本は、1,419億円増の2兆9,050億円となりました。

連結キャッシュ・フロー



(単位：億円)

	22年3月期 1Q	23年3月期 1Q	24年3月期 1Q
当期純利益	583	414	534
減価償却費	313	351	360
受取債権の増(-)減(+)	721	233	433
棚卸資産の増(-)減(+)	-396	-625	-393
営業債務の増(+)-減(-)	51	-51	-9
その他	-318	-175	-178
営業活動によるCF	954	147	747
設備投資	-275	-520	-934
ソフトウェアの購入	-70	-113	-80
投資有価証券の売却・購入等	-5	19	17
事業買収	-2	-148	-
その他	-17	-58	12
投資活動によるCF	-369	-820	-985
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	585	-673	-238
事業買収等を除くFCF※	592	-544	-255

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などによって、前年より600億円増加し、747億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、バイオCDMOを中心とする設備投資の拡大により、前年より165億円増加し、985億円の支出となりました。





この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、255億円の支出となりました。

2024年3月期 第1四半期 決算の説明は以上です。

03 2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期	2024年3月期 前回予想 (2023/5/10公表値)	2024年3月期 今回予想 (2023/8/9公表値)	対前年度	対前回予想
売上高	28,590 100%	29,500 100%	 29,500 100%	910 +3.2%	-
営業利益	2,731 9.6%	2,900 9.8%	 2,900 9.8%	169 +6.2%	-
税金等調整前当期純利益	2,822 9.9%	2,950 10.0%	 2,950 10.0%	128 +4.5%	-
当社株主帰属当期純利益	2,194 7.7%	2,250 7.6%	 2,250 7.6%	56 +2.5%	-
1株当たり当社株主帰属当期純利益 ^(※)	547.21円	560.96円	560.95円	+13.74円	-0.01円
ROE	8.3%	8.0%	8.0%	-0.3%	-
ROIC	6.1%	5.9%	5.9%	-0.2%	-
CCC	125日	111日	111日	-14日	-
為替 ：米ドル	136円	135円	136円	-	1円安
：ユーロ	141円	145円	146円	5円安	1円安
銀価格 (/kg)	93,000円	106,000円	106,000円	+13,000円	-

※ 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年6月30日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

2024年3月期の通期連結業績予想は、冒頭に後藤からお伝えしました通り、売上高は2兆9,500億円、営業利益は2,900億円、当社株主帰属当期純利益は2,250億円と、前回予想を据え置き、過去最高の更新を目指します。

セグメント別業績予想

(単位：億円)

売上高	2023年3月期	2024年3月期 前回予想 (2023/5/10公表値)	2024年3月期 今回予想 (2023/8/9公表値)	対前回予想		為替影響除く	
				対前	対後	対前	対後
※ ヘルスケア	9,286	9,700	9,700	-	-	-30	-0.3%
※ マテリアルズ	6,820	7,150	7,050	-100	-1.4%	-120	-1.7%
ビジネスイノベーション	8,381	8,450	8,450	-	-	-10	-0.1%
イメージング	4,103	4,200	4,300	100	+2.4%	85	+2.0%
合計	28,590	29,500	29,500	-	-	-75	-0.3%

(単位：億円)

営業利益	2023年3月期	2024年3月期 前回予想 (2023/5/10公表値)	2024年3月期 今回予想 (2023/8/9公表値)	対前回予想		為替影響除く	
				対前	対後	対前	対後
※ ヘルスケア	1,028	1,160	1,120	-40	-3.4%	-46	-4.0%
※ マテリアルズ	654	630	580	-50	-7.9%	-55	-8.7%
ビジネスイノベーション	695	750	780	30	+4.0%	29	+3.9%
イメージング	729	750	800	50	+6.7%	42	+5.6%
全社/連結調整	-375	-390	-380	10	-	10	-
合計	2,731	2,900	2,900	-	-	-20	-0.7%

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリセットしています。

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

第1四半期の実績や足元の事業状況、今後の市場環境を鑑みて、売上高及び営業利益を修正します。

売上高は、業績好調なイメージングを100億円上方修正し、電子材料が半導体市況悪化の影響を受けているマテリアルズで100億円下方修正します。

営業利益は、好調なイメージングの他、コスト改善が進むビジネスイノベーションを上方修正し、棚卸資産評価減を計上したヘルスケア、半導体市況影響を受けたマテリアルズを下方修正します。

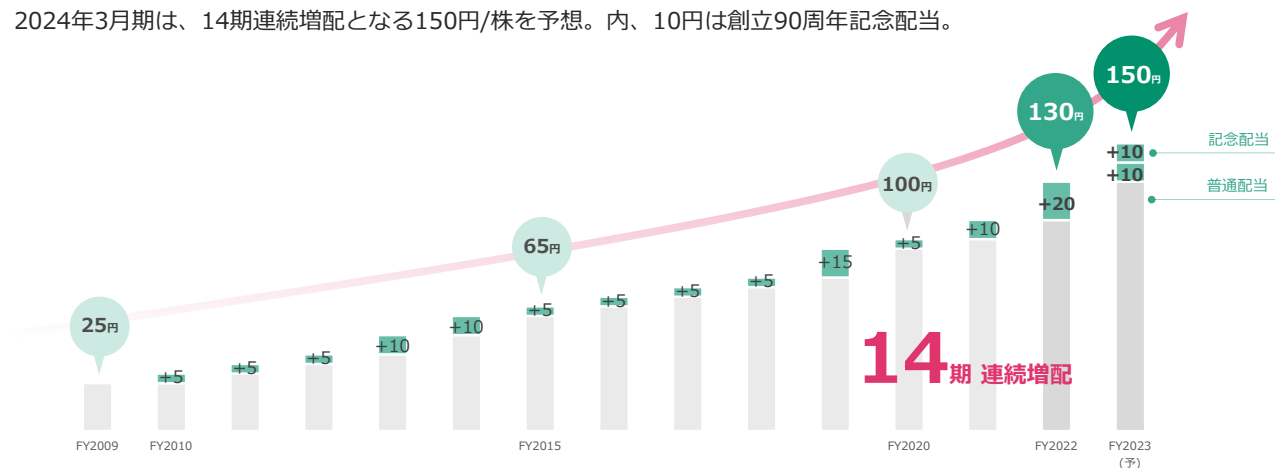
セグメント別の修正についての詳細は、28ページをご参照ください。

株主還元

株主還元

■ 配当金

〉 2024年3月期は、14期連続増配となる150円/株を予想。内、10円は創立90周年記念配当。



2024年3月期の年間配当予想は、創立90周年記念配当10円を含む、14期連続増配となる1株当たり150円を予定します。

04 2024年3月期 第1四半期 決算 参考資料

1Q 業績：ヘルスケア

(単位：億円)

売上高	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
※ メディカルシステム	1,303	1,401	98	+7.5%	60	+4.5%
バイオCDMO	306	409	103	+33.4%	80	+26.1%
LSソリューション	219	258	39	+18.2%	32	+14.8%
合計	1,828	2,068	240	+13.1%	172	+9.4%

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	113 [6.2%]	103 [5.0%]	-10	-9.1%	-18	-16.2%

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

1Q 業績 : マテリアルズ

(単位 : 億円)

売上高	1Q				
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く
電子材料	446	405	-41	-9.1%	-59 -13.1%
ディスプレイ材料	237	201	-36	-15.4%	-36 -15.4%
※ 他高機能材料	225	185	-40	-17.6%	-46 -20.0%
グラフィックコミュニケーション	816	755	-61	-7.6%	-84 -10.6%
合計	1,724	1,546	-178	-10.4%	-225 -13.1%

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q				
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く
マテリアルズ	223 [12.9%]	93 [6.1%]	-130	-58.1%	-146 -65.5%

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

1Q 業績 : ビジネスイノベーション

(単位 : 億円)

売上高	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
オフィスソリューション	1,288	1,258	-30	-2.3%	-50	-3.9%
ビジネスソリューション	594	684	90	+15.2%	88	+14.9%
合計	1,882	1,942	60	+3.2%	38	+2.0%

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ビジネスイノベーション	142 [7.5%]	169 [8.7%]	27	+18.7%	27	+18.4%

1Q 業績：イメージング

(単位：億円)

売上高	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
コンシューマーイメージング	541	632	91	+17.0%	64	+11.9%
プロフェッショナルイメージング	284	420	136	+47.9%	127	+44.7%
合計	825	1,052	227	+27.6%	191	+23.2%

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q					
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替影響除く	
イメージング	105 [12.8%]	233 [22.1%]	128	2.2倍	113	2.1倍

営業利益増減分析(1Q実績 対前年実績)

(単位: 億円)

	1Q								
	2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替	原材料価格	一時費用	オペレー ション等	
※4 ヘルスケア	113	103	-10	-9.1%	8	-5	-46	33	
マテリアルズ	223	93	-130	-58.1%	16	1	-2	-145	
ビジネスイノベーション	142	169	27	+18.7%	0	-1	12	16	
イメージング	105	233	128	2.2倍	15	-2	5	110	
全社/連結調整	-87	-76	11	-	1	-	-	10	
合計	496	522	26	+5.4%	※1 40	※2 -7	※3 -31	24	

※1: 為替レート

	2023年 3月期 1Q	2024年 3月期 1Q
米ドル	130円	138円
ユーロ	138円	150円

※2: 原材料別(半導体影響は除く)

	1Q
銀	-7
アルミ	12
他(燃料等)	-12
合計	-7

※3: 一時費用明細

(単位: 億円)

	2023年 3月期 1Q	2024年 3月期 1Q	差異
ヘルスケア	13	59	-46
新設買収会社(CDMO)	11	-	11
増設資産評価減(CDMO/LS)	-	50	-50
その他	2	9	-7
マテリアルズ	4	6	-2
グラフィックインクジェット等	4	6	-2
ビジネスイノベーション	12	-	12
体質強化費用	5	-	5
新ブランド移行費用	7	-	7
イメージング	10	5	5
体質強化費用等	-	5	5
全社	-	-	-
合計	39	70	-31

※4 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

2024年3月期 通期連結業績予想

事業別売上高

(単位:億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 前回予想(5/10)	2024年3月期 今回予想(8/9)	対前年度		対前回予想	
※ ヘルスケア	9,286	9,700	9,700	414	+4.5%	-	-
メディカルシステム	6,218	6,500	6,500	282	+4.5%	-	-
バイオCDMO	1,942	1,950	1,950	8	+0.4%	-	-
LSソリューション	1,126	1,250	1,250	124	+11.0%	-	-
※ マテリアルズ	6,820	7,150	7,050	230	+3.4%	-100	-1.4%
電子材料	1,806	2,000	1,900	94	+5.2%	-100	-5.0%
ディスプレイ材料	701	750	750	49	+6.9%	-	-
他高性能材料	893	950	950	57	+6.3%	-	-
グラフィックコミュニケーション	3,420	3,450	3,450	30	+0.9%	-	-
ビジネスイノベーション	8,381	8,450	8,450	69	+0.8%	-	-
オフィスソリューション	5,555	5,550	5,550	-5	-0.1%	-	-
ビジネスソリューション	2,826	2,900	2,900	74	+2.6%	-	-
イメージング	4,103	4,200	4,300	197	+4.8%	100	+2.4%
コンシューマーイメージング	2,669	2,700	2,750	81	+3.0%	50	+1.9%
プロフェッショナルイメージング	1,434	1,500	1,550	116	+8.1%	50	+3.3%
合計	28,590	29,500	29,500	910	+3.2%	-	-
為替							
米ドル	136円	135円	136円	-		1円安	
ユーロ	141円	145円	146円	5円安		1円安	

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

営業利益増減分析(通期業績予想 対前回業績予想)

(単位:億円)

	2024年3月期(通期)		対前回予想						
	前回予想 (2023/5/10)	今回予想 (2023/8/9)	為替	原材料価格	一時費用	オペレー ション等			
ヘルスケア	1,160	1,120	-40	-3.4%	6	-	-50	4	
※4 マテリアルズ	630	580	-50	-7.9%	5	-	-10	-45	
ビジネスイノベーション	750	780	30	+4.0%	1	-	-	29	
イメージング	750	800	50	+6.7%	8	-	-	42	
全社/連結調整	-390	-380	10	-	-	-	-	10	
合計	2,900	2,900	-	-	※1 20	※2 -	※3 -60	40	

※1: 為替レート

	前回予想 (2023/5/10)	今回予想 (2023/8/9)
米ドル	135円	136円
ユーロ	145円	146円

※2: 原材料別(半導体影響は除く)

	通期
銀	-
アルミ	-
他(燃料等)	-
合計	-

※3: 一時費用明細

	前回予想 (2023/5/10)	今回予想 (2023/8/9)	差異
ヘルスケア	25	75	-50
棚卸資産評価減(CDMO/LS)	-	50	-50
その他	25	25	-
マテリアルズ	45	55	-10
新規買収会社(電子材料)	-	10	-10
グラフィック/インクジェット等	45	45	-
ビジネスイノベーション	-	-	-
体質強化費用	-	-	-
新ブランド移行費用	-	-	-
イメージング	20	20	-
体質強化費用等	20	20	-
全社	-	-	-
合計	90	150	-60

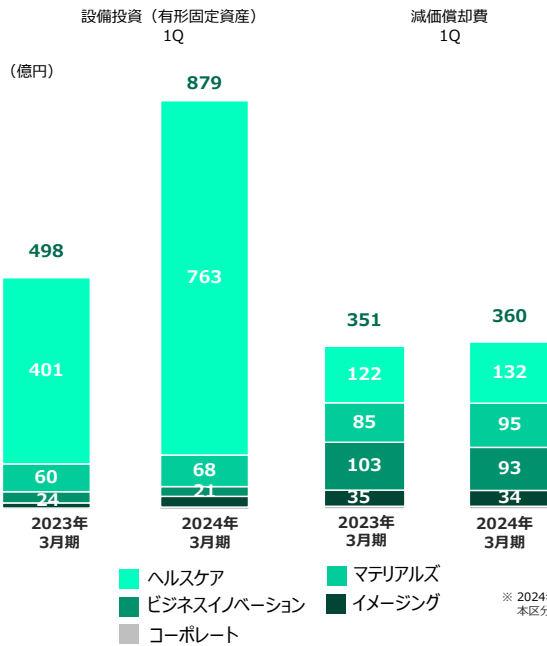
※4 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。
本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリスタートしています。

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

	2023年3月期 1Q		2024年3月期 1Q		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	35.8%	2,240	36.2%	2,391	151	+6.7%
米州	21.4%	1,337	22.2%	1,465	128	+9.6%
欧州	15.1%	942	13.6%	899	-43	-4.6%
内、中国	13.9%	867	14.4%	953	86	+9.9%
アジア他	27.7%	1,740	28.0%	1,853	113	+6.5%
海外	64.2%	4,019	63.8%	4,217	198	+4.9%
合計	100.0%	6,259	100.0%	6,608	349	+5.6%

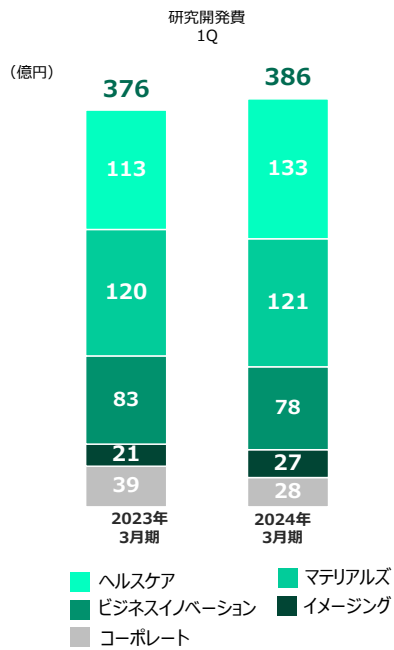
設備投資 | 減価償却費



年度	1Q		通期	
	2023年 3月期	2024年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 (予想)
ヘルスケア	401	763	2,199	3,850
マテリアルズ	60	68	446	680
ビジネスイノベーション	24	21	126	120
イメージング	11	23	96	120
コーポレート	2	4	16	30
設備投資 (有形固定資産)	498	879	2,883	4,800
ヘルスケア	24	38	171	150
マテリアルズ	16	11	62	60
ビジネスイノベーション	124	62	479	280
イメージング	12	6	47	50
コーポレート	8	7	32	60
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	184	124	791	600
ヘルスケア	122	132	505	560
マテリアルズ	85	95	328	350
ビジネスイノベーション	103	93	422	420
イメージング	35	34	141	150
コーポレート	6	6	26	30
減価償却費	351	360	1,422	1,510

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリセットしています。

研究開発費 | 販売費及び一般管理費



(単位：億円)

年度	1Q		通期	
	2023年 3月期	2024年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 (予想)
ヘルスケア	113	133	490	
マテリアルズ	120	121	464	
ビジネスイノベーション	83	78	331	
イメージング	21	27	95	
コーポレート	39	28	161	
研究開発費	376	386	1,541	1,650
<売上高比>	6.0%	5.8%	5.4%	5.6%
販売費及び一般管理費	1,672	1,724	7,107	
<売上高比>	26.8%	26.1%	24.8%	

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2023年3月期					2024年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2-4Q(予想)	通期
米ドル	130	139	141	132	136	138	135	136
ユーロ	138	139	144	142	141	150	145	146

為替感応度 1円の変動による影響 (年間)

	売上高	営業利益
米ドル (1円あたり)	50億円	6億円
ユーロ (1円あたり)	15億円	8億円

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2023年3月期					2024年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2-4Q(予想)	通期
銀	95	86	94	97	93	106	106	106

人員

(単位：人)

	2022.6末	2022.9末	2022.12末	2023.3末	2023.6末
連結	75,341	75,090	74,491	73,878	73,583

パイプライン (2023年8月9日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	日本	Ph III
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
	欧州		Ph II	
	日本		Ph II	
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬			
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I

参考情報

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2022**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルム事業概要**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/business-overview.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>